

西向遺跡

—畠地帯総合土地改良事業清原南部地区に伴う発掘調査—

2014.2

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

にし むかい

西向遺跡

—畠地帯総合土地改良事業清原南部地区に伴う発掘調査—

2014. 2

栃木県教育委員会
公益財団法人 とちぎ未来づくり財団

序

西向遺跡は、栃木県の中央部、宇都宮市に位置しています。鬼怒川の東側には宝積寺台地と呼ばれる台地が広がっており、そこにはいくつもの谷を開析されています。こうした谷に面した場所に西向遺跡は立地しています。鬼怒川の恵みや谷を流れる小川の水を利用して、当時の人びとはこの地に生活の場を求めたようです。

このたび、農地整備事業（畑地帯総合土地改良事業清原南部地区）に先立ち、事業地内に所在する遺跡の範囲・内容を確認することを目的とした発掘調査を行いました。

発掘調査では、平安時代の集落の跡を明らかにすことができました。なかでも、墨で「慶慶」とも読める文字とヒゲのある魚（コイ？）が描かれた土器が出土したことは注目されます。漁網の錘がまとった数が出土したこととあわせて、豊漁を祈念して書かれたと考えることもできます。いずれにしても、川が密接に生活と係わっていたことがうかがえます。

本報告書は、西向遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県農政部、芳賀土地改良事務所（現芳賀農業振興事務所）、栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 2 月

栃木県教育委員会
教育長 古澤 利通

例　　言

1. 本書は、栃木県宇都宮市上籠谷地内に所在する西向遺跡の確認調査報告書である。遺跡の概要については、埋蔵文化財センター年報・栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、調査内容・成果については本書が優先となる。但し、記録類の不備や遺物整理未了な部分もあることから、概要報告の扱いとし、別途不備などを補うこととする。
2. 確認調査は、畠地帯総合土地改良事業清原南部地区に伴う記録保存調査である。
3. 確認調査は、栃木県農務部の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもとに、財団法人栃木県文化振興事業団（現 公益財団法人とちぎ未来づくり財団）埋蔵文化財センターが実施したものである。
4. 確認調査から整理作業および報告書作成までの担当は、次のとおりである。

確認調査

平成 9 年度　　（発掘調査）　　平成 10 年 1 月 26 日～平成 10 年 3 月 23 日
財団法人栃木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター調査部
担当 岩瀬一夫・森嶋秀一・谷中 隆

平成 25 年度（整理・報告）　　平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 2 月 28 日
公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター普及資料課
担当 亀田幸久

5. 本書の執筆・編集は、亀田が担当し、一部猪瀬・吉田が補助した。
6. 写真撮影は発掘調査における遺構を岩瀬・森嶋・谷中が、遺物を吉田が行った。
7. 基準杭建植・航空写真撮影は、中央航業株式会社に委託した。
8. 発掘調査の実施ならびに報告書の作成にあたっては、次の機関からご指導、ご協力を賜った。
栃木県教育委員会事務局文化財課、栃木県農政部、芳賀農業振興事務所、宇都宮市教育委員会（順不同）
9. 本遺跡の出土遺物・資料類は、公益財団法人とちぎ未来づくり財団で保管している。
10. 発掘調査参加者は、次の通りである。
荒井明子、荒井竹子、角田和子、桑川貴江、高橋重雄、早川正昭、山口ナヲ、山口りえ子（五十音順）
11. 整理作業・報告書作成参加者は、次の通りである。
井上利恵、五十嵐寿子、田口里美、七原徹郎、深沢恵、行澤民代、（五十音順）

凡　　例

1. 遺跡の略号は、年報表記がUT-N S (U TSUNOMIYA-NISHIMUKAI)、または遺物注記がUT-N I (U TSUNOMIYA-N ISHIMUKAI)である。
2. 遺構略号および番号は、遺構の種類により次のように表示している。
S I (竪穴住居跡)、SD (溝跡)、SK (土坑)
3. 遺構実測図の縮尺は、実測図中にスケールで示した。原則として1/80であるが、竪穴住居跡については住居跡平面図のほかに1/40のものを併せて掲載した。
4. 遺構実測平面図中の方位は、適宜磁北および旧日本測地系(Tokyo Datum)平面直角座標系第IX系に基づいている。断面図中の水準は、東京湾平均海面からの標高である。
5. 土層説明における色調・含有物分量についての記載は、発掘調査時の観察に準拠している。
6. 遺物実測図の縮尺は、実測図中にスケールで示した。原則として土器・土製品1/3としている。
7. 出土遺物実測図中の遺物番号は、遺物出土状況図・出土遺物観察表・遺物写真図版中の番号に対応する。
8. 出土遺物観察表中における寸法の、口径・器高・底径・胴径・頸径・摘要・摘要(土師器・須恵器等)・長さ・幅・厚さ・長さ・幅・孔径(土製品)の略称は、それぞれ口縁部直径・器高・底部直径・胴部最大直径・頸部最大直径・つまみ直径・つまみ高・最大長・最大幅・孔部直径を示す。
9. 出土遺物観察表および遺構計測表中における計測値の()は推定値、〔 〕は残存値を表す。
10. 遺物の色調は、農林水産技術会議事務局財団法人日本色研究所色票監査『新版標準土色帳』1995年版に従っている。併せて、胎土・焼成・調整手法などの観察結果も表中に示す。
11. 遺物写真図版の縮尺は、基本的に不統一である。
12. 実測図中のスクリーントーンは、遺構がカマド・焼土部分など、遺物が内面黒色処理・陶器断面など適宜示した部分がある。

目 次

第1章 再整理・資料化事業の経緯と概要

第1節 調査・整理に関する経緯	1
-----------------	---

第2章 報告遺跡の概要

第1節 西向遺跡の概要

(1) 調査の概要	3
(2) 遺構と遺物	5

第3章 まとめ	14
---------	----

挿図目次

第1図 西向遺跡位置図 (S=1/25,000)	3
第2図 西向遺跡トレンチ配置図 (S=1/2,500)	4
第3図 西向遺跡 S I O 及び墓壙	6
第4図 西向遺跡 S I O 2	7
第5図 西向遺跡 S I O 1・0 2・0 3出土遺物	8
第6図 西向遺跡 S I O 3	11
第7図 西向遺跡 土坑	13

表目次

第1表 収蔵庫内の確認調査・工事立会遺物一覧	2
第2表 西向遺跡 S I O 1・0 2・0 3出土遺物観察表 (1)	9
第3表 西向遺跡 S I O 1・0 2・0 3出土遺物観察表 (2)	10

写真図版目次

図版一 西向遺跡 遺構

- 西向遺跡 遠景（東上空から）
- 西向遺跡 全景（北から）
- 西向遺跡 T 1（北から）
- 西向遺跡 T 3より南を望む（北から）
- 西向遺跡 T 4（北から）

図版二 西向遺跡 遺構

- 西向遺跡 T 5（北から）
- 西向遺跡 T 6（北から）
- 西向遺跡 T 7（北から）
- 西向遺跡 T 8（北から）
- 西向遺跡 T 11（北から）
- 西向遺跡 T 14（北から）
- 西向遺跡 T 15（南から）
- 西向遺跡 T 18（北から）

図版三 西向遺跡 遺構

- 西向遺跡 T 22（北から）
- 西向遺跡 T 24（北から）
- 西向遺跡 墓壙 骨出土状況（西から）
- 西向遺跡 墓壙（西から）
- 西向遺跡 SK 02・03・04土層断面C-C'（北から）
- 西向遺跡 S I 01（西から）
- 西向遺跡 墨書き土器出土状況（南から）
- 西向遺跡 S I 01 P 1（南から）

図版四 西向遺跡 遺構

- 西向遺跡 S I 01 カマド（南から）
- 西向遺跡 S I 02（西から）
- 西向遺跡 S I 02 作業風景（南西から）
- 西向遺跡 S I 03 遺物出土状況（南西から）
- 西向遺跡 S I 03 №13 出土状況（南西から）
- 西向遺跡 S I 03（北から）
- 西向遺跡 S I 03 東カマド（北から）
- 西向遺跡 S I 03 作業風景（北から）

図版四 西向遺跡 遺物

- S I 01 出土遺物
- S I 02 出土遺物
- S I 03 出土遺物

図版五 西向遺跡 遺物

- S I 03 出土遺物

第1章 再整理・資料化事業の経緯と概要

第1節 調査・整理に至る経緯

平成21～23年度に、緊急雇用創出事業として埋蔵文化財センター収蔵庫内の再整理事業を実施した。この時、未整理・報告書未刊行の遺跡の収蔵状況の確認行ったが、その結果は第1表のとおりであった。現地での発掘調査は完了したが正式報告にむけての整理作業が商業化できなかつたもの、未整理の県教育委員会事務局文化財課が行った確認調査や工事立会、埋蔵文化財センターに委託された県営圃場整備事業の確認調査の遺物等がある。平成24年3月には、栃木市都賀町所在の木村古墳群、下野市石橋南部地区的遺跡、同市江川五千石地区的遺跡の3事業地内の遺跡について、報告書を刊行した。いずれも県文化財課による確認調査・工事立会資料であるが、後二者については埋蔵文化財センターによる確認調査資料も含まれている。

平成25年3月から平成26年2月、埋蔵文化財調査成果資料作成事業として、西向遺跡の整理作業および報告書作成事業を行った。平成25年3月1日付けで、栃木県と財団法人とちぎ未来づくり財団との間で、平成25年3月1日～同年3月31日までの委託契約を締結した。平成25年4月1日付けで、栃木県と公益財団法人とちぎ未来づくり財団との間で、平成25年4月1日～平成26年2月28日までの委託契約を締結した。



注記作業



遺物復元作業



トレース作業



版下作成作業

第1表 収蔵庫内の確認調査・工事立会遺物一覧

遺跡名	箱数	整理状態	調査年	調査原因	調査種別	備考
井戸	191	未洗、注記、復元	H1	県宮園場整備事業	埋七確認調査	調文集落跡遺構多数
鶴塚、大前タカラ跡	1	未洗	H4, 5?	県宮園場整備事業確認調査関連?	生産遺跡調査か	
船山Ⅰ遺跡	42	注記済み	H13	県宮園場整備事業金田北郡2期	埋七確認調査	調文集落跡
船山Ⅱ遺跡・船山Ⅳ遺跡	28	注記、一部復元	H21	経営体育成基盤整備事業金田北郡3期	埋七確認調査	調文集落跡
福和東	1	未洗	S61	県宮園場整備事業	埋七確認調査	生本町、古墳時代集落等
作内	43	水洗済み	H7	県宮園場整備事業金田所南部地区	埋七確認調査	塙谷町、平安時代集落
山形遺跡	1	未洗	H7	県宮園場整備事業金田所南部地区	埋七確認調査	塙谷町、平安時代集落
県園部係(1-U7U8)	93	未洗		県宮園場整備事業兼用調査関連等	埋七確認調査	遺跡複数
県園	4	未洗	H21	県宮園場整備事業鹿久根田地区	埋七確認調査	真岡市
県園・南鹿他	2	水洗済み	H12	県宮園場整備事業鹿久根田地区	文化財調査会立会	真岡市
上二川、下新田	4	水洗済み				
皆城	1	水洗済み				
川地北	6	水洗済み	H7	県宮園場整備事業風見上平地区	埋七確認調査	柳木町、平安・近世
木本古墳群	21	水洗済み	H7	県宮園場整備事業金田南部地区	文化財調査会立会	古墳時代集落、本報告
県園 手洗塀	1	水洗済み	H6	県宮園場整備事業		
根本	9	水洗済み	H8	県宮園場整備事業鹿野南部地区	埋七確認調査	宇都宮市、鷺住町10
栗谷製鉄跡隣接地、中ノ目等	2	水洗済み	H9	県宮園場整備事業原南原南地区	埋七確認調査	宇都宮市、黒土石堀・土跡
西向	9	水洗済み	H9	県宮園場整備事業原南原南地区	埋七確認調査	柳木県民文報告279集で構成の み報告
細沢C	2	水洗済み	H9	主要地方道那須羽茂木線	文化財調査会立会	
桑の川	2	水洗済み	H10	県宮園場整備事業奥川西地区	埋七確認調査	真岡市
北の前	1	水洗済み	H11	県宮園場整備事業奥川地区	文化財調査会立会	大田原市
吹上東部地区・桜塚地区	2	水洗済み	H11	県宮園場整備事業奥川地区	埋七確認調査	柳木市
松原丘	2	水洗済み	H14	県宮園場整備事業金田北郡2期地区	文化財調査会立会	大田原市
井ノ上、西耕地、西中道	2	水洗済み	H15	県宮園場整備事業木野西部	埋七確認調査	TD-IN, TO-NS, TO-TN
江川南部開闢	14	水洗済み	H4, 15, 16	県宮園場整備事業江川南部I地区	埋七確認調査	本調査あり、森後等、古墳時代~古代集落等
東乙畑、白沢久保	2	水洗済み	H15	県宮園場整備事業江川南部II地区	埋七確認調査	
仁王地、井戸戸等小貝川沿岸	4	水洗済み	H19	経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸2期	埋七確認調査	本調査あり、古墳時代集落等
農泉深津地区 新規A	2	水洗済み	H21	経営体育成基盤整備事業深津地区	文化財調査	
温泉神社北	2	水洗済み	H22	国道294号	文化財調査	鹿沼市
鉢形	2	水洗済み	H10	県道福良川線バイパス	埋七水調査	
UT-KB	1	注記済み	H9			
ア屋、笠原、小泉、和尚塚	2	注記済み	H9	県宮園場整備事業原南原南地区	文化財調査	鹿沼市
本田ノ下上遺跡	20	水洗済み	H10	県宮園場整備事業原南原南地区	埋七確認調査	利賀町、中・近世
中垂山ノ内	1	注記済み	H3	県宮園場整備事業	文化財調査	宇都宮市
県園、下田原南部地区	6	注記済み	H15, 16	経営体育成基盤整備事業下田原南部地区	埋七確認調査	塙谷町
柳木市西部地区	2	注記済み	H16	県宮園場整備事業木野西部地区	文化財調査	小山市、木製品販
桑の川A、西耕地、青龍湖等	5	注記済み	H16	県宮園場整備事業	埋七確認調査	東乙畑: 東坂市 白沢久保: 宇都宮市
(桑の川A)						
(西耕地)						
(青龍湖)						
石橋南部開闢、峯口北等	13	注記済み、接合	H17	県宮園場整備事業石橋南部地区	文化財調査	埋七確認調査もあり。古墳・奈良・平安・中・近世
SN-KY, SN-KH, SN-HY, SN-ID	1	注記済み	H17		不明	東野市
大明神、横塚	1	注記済み	H19		文化財調査	
(大明神)						
(横塚)						
西田、塙宮東田	1	注記済み	H20	大明神: 鳥道羽生田鶴田殿 経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸2期	文化財調査	宇都宮市
(西田)						
長者平西	2	注記済み		経営体育成基盤整備事業木野西部地区	文化財調査	柳木市
猿山	2	接合済み	S49	経営体育成基盤整備事業那須清流地区	埋七確認調査	塙谷町
曲田	2	接合済み	H13	新4号国道建設?	文化財調査	大田原市
小貝川沿岸I期	1	注記済み	H16	県宮園場整備事業小貝川沿岸I期	埋七確認調査	宇都宮市猿山か?
門前	1	接合済み	H17	県宮園場整備事業鹿久根次郎地区	文化財調査	宇都宮市
寺野東(第I・V、第II、第IV街区)	4	接合済み	H12, 17, 18	小山東部工業団地	埋七確認調査	小山市、本調査隣接地
峰崎	7	接合済み	H18	経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸I期	文化財調査	市貝町
分郷内	2	接合済み	H18	経営体育成基盤整備事業小貝川沿岸I期	埋七確認調査	市貝町
小口小南	1	接合済み	H20	県道小砂小口線	文化財調査立会	柳木町
野間	6	接合済み	H21	県道佐野町木線	文化財調査立会	柳木町
江川・五千石地区開闢	42	注記済み	H18, 19, 20	県宮園場整備事業江川五千石地区	文化財調査立会	埋七確認調査含む。未報告
西ノ木遺跡		実測済み	H14	県宮園場整備事業生田北郡地区	埋七確認調査	塙谷町、鶴見晚晴、古代

※そのほかに、報告書作成済みの遺跡として小鍋前遺跡1箱、鶴田A遺跡23箱、下野国府勝1箱等がある。

第2章 報告遺跡の概要

第1節 西向遺跡の概要

(1) 調査の概要

経緯と遺跡の概要

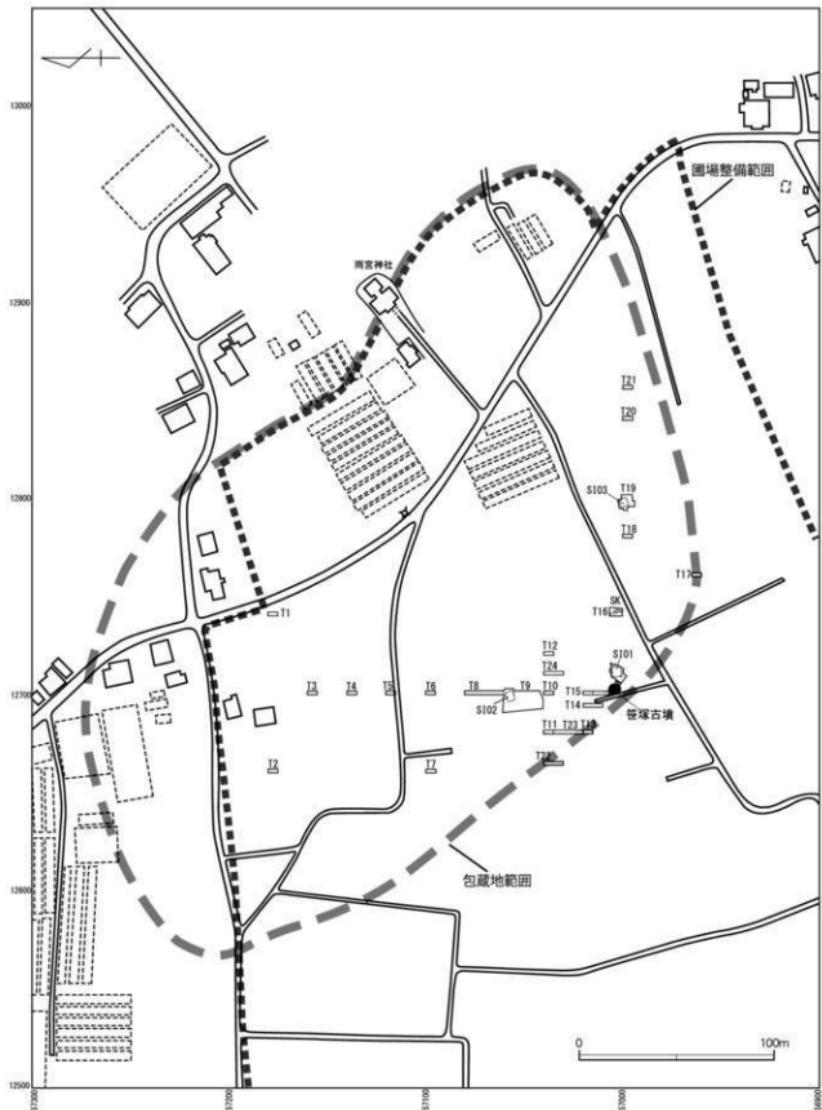
宇都宮市は、栃木県中央部に位置する県庁所在地であり、東北縦貫自動車道・幹線国道（4号・新4号）などの道路と、鉄道（JR東北新幹線・東北本線）が縱走する交通の利便性から経済・商工業の中心地となっている。また、県内市町村内でも有数の畑地・水田地帯の耕地面積割合を持つ一面も兼ね備えており、農産物出荷額も比較的高い。そのような状況下で、耕地や農道の再整備による機械化農業への対応・生産性の向上・次世代の担い手の育成などを目的とした圃場整備事業の必要が生じてきた。

栃木県教育委員会文化課（現文化財課）では、市域南西部の県営畑地帯総合土地改良事業清原南部地区の上籠谷地内に所在する西向遺跡（周知の遺跡、県登録番号No.3369）の取り扱いについて県農務部農村整備課（現農政部農地整備課）と、掘削深が表土厚を越えない計画により工事を行うことで協議を進めていた。ところが、一部については掘削深が表土厚を越えることが避けられないため、財団法人文化振興事業団（現とちぎ未来づくり財団）で確認調査を実施することとなった。調査の実施日は平成10年1月26日～平成10年3月23日に実施され、確認調査実績報告書において事業執行上配慮する範囲を設けるが、工事の実施には差し支えのない旨の回答について、平成10年3月に教育委員会事務局文化課長から農村整備課長あてに文書が提出されている。

西向遺跡は、宇都宮市上籠谷地内に位置し、鬼怒川の東岸台地中央部、標高106m前後に立地している。埋蔵文化財包蔵地範囲内には笹塚古墳（周知の遺跡、県登録番号№3368）が所在し、周辺には並塚遺跡・和尚塚古墳・小泉遺跡が点在している。今回はこのうち西向遺跡の報告を行うこととする。



第1図 西向遺跡位置図 (S=1/25,000)



第2図 西向遺跡トレンチ配置図 (S=1/2,500)

調査の概要

調査対象区の範囲内に存在する上籠谷笹塚古墳（以下笹塚古墳とする）と併せて、幅2m×5mの試掘坑をT1から21か所設定し、その後遺構の確認状況により拡張・新規設定を重ね、計24カ所となった。その結果、竪穴住居跡3軒、墓坑1基、土坑5基、溝跡1条を確認した。笹塚古墳については南東裾部に礫群が確認されたが、周溝は確認されず、古墳としての性格よりは、供養塚などの可能性が高まつた。

竪穴住居跡は、笹塚古墳東側に隣接するものをS101、01の北方約60mに位置するものをS102、01の東方約100mに位置するものをS103とした。各遺構の詳細については別項の事実記載にて説明する。

今回報告する遺物は、この住居跡3軒から出土したもので、土師器・須恵器・土製品を主とする。竪穴住居からは主に平安時代の土器が出土している。内訳は土師器・須恵器・土鍤等で、33点を実測・図化した。S101からは土師器・土鍤、S102からは土師器・須恵器、S103からは土師器・須恵器・土鍤が中心に出土し、遺物量としてはS103が最も多い。なお、他の金属製品・石製品については機会を改めて報告したい。

（2）遺構と遺物

S101 （第3・5図、第2表、図版三・四・五）

位置 調査区の南西部No.15グリッド杭付近で確認し、笹塚古墳の東に隣接する。

新旧関係 西辺中央部の土坑・南西コーナー部の墓壙より古い。

規模・形状 長軸東西4.0m、短軸南北3.9mの正方形である。

主軸方向 置を上にすると、磁北-10° -Wである。

埋土 周溝部に第一次堆積（4層）が確認されるが、全体的にローム粒子・ロームブロックを多く含むことから、人為埋土と考えられる。

壁 深さは0.20~0.30mで、各辺ともほぼ垂直から60°程度の傾きで、場所により立ち上がりに差がある。

床面・貼床 中央部は地山ローム面を床としており、やや凹凸があり、貼床は施されていなかった。堀方部分には埋め戻しに伴い貼床が施されていた可能性がある。

掘方 四隅を土坑状に掘り込む。

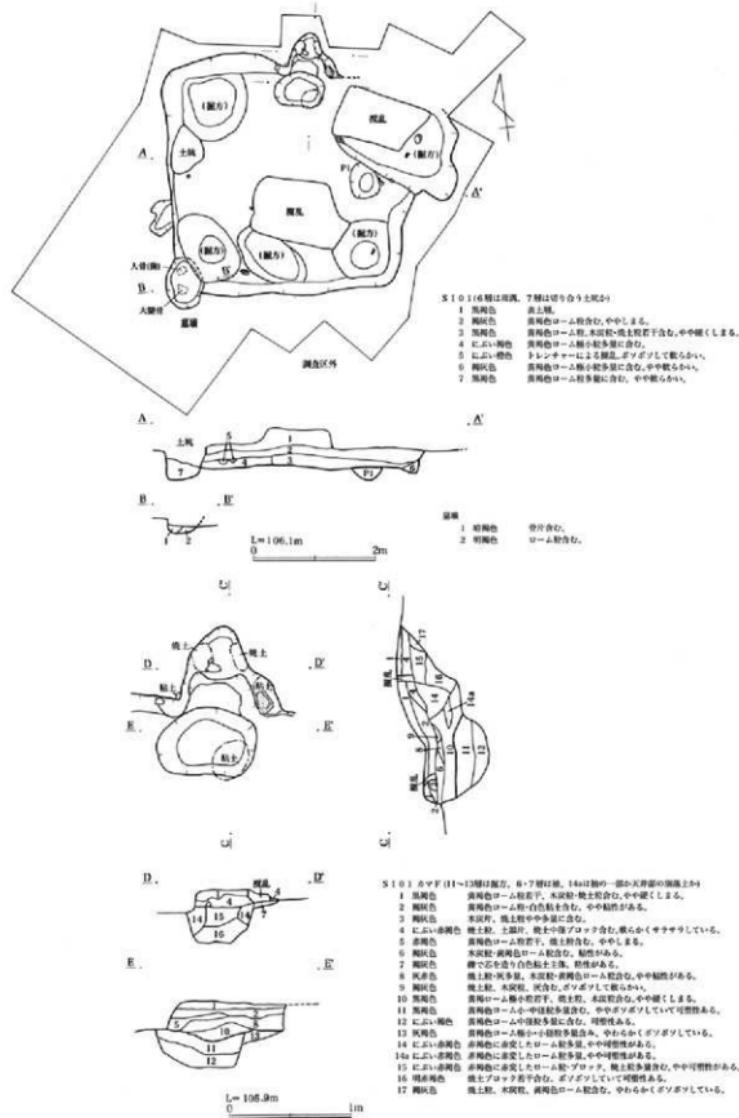
周溝 確認されなかった。

柱穴 P1が柱穴の可能性がある。平面梢円形、断面鍋底状で、規模は、長軸0.54m・短軸0.46m・床面からの深さ0.22mである。また、西辺中央部の土坑が本住居跡に伴うのであれば、深さがほぼ同じ為、2本柱穴で上屋を支えていた可能性も考えられる。

入口ピット・貯蔵穴 確認されなかった。

火処 北辺中央部にやや西より竈を造り付けている。袖部は右袖に川原石を芯材にして白色粘土を用いて構築しているが、破壊された部材が前底部に散乱している。天井部の残存状況は良くない。確認できた規模は、袖幅1.05m・全長1.21mである。燃焼部から煙道にかけて良く焼けている。煙道は、平面舟首形状で、先端が60°の傾きで緩やかに立ち上がり、北壁を幅0.84m・奥行き0.67mに掘り込んでいる。床面は、長軸東西0.82m・短軸南北0.55m、深さ0.16mの平面梢円形、断面鍋底状に掘り廻めた後に、黒褐色土やにぶい褐色土で埋め戻して火床（10層下面）としている。燃焼部内における焼土粒子・炭化物粒子の堆積が多いことから、使用期間は長かったと考えられる。

出土遺物 調査時には13点の遺物を確認した。うち図化・掲載した遺物は、第5図のとおりで、土師器の杯1



第3図 西向遺跡 S 101 及び墓壙

点(1)・甕1点(2)土製品の土錐3点(3・4・5)、の計5点である。特筆される遺物は1の土師器で底部には魚の絵が描かれ、体部には墨書「慶慶」が認められる。魚は骨の描写からコイの可能性がある。図示した遺物の出土状態は、すべて覆土中である。未掲載であるが石製品・鉄製品が出土している。時期出土遺物から、平安時代前期(9世紀中葉)と考えられる。

S I 0 2 (第4・5図、第2表、図版四・五)

位置 調査区南西部No.9~10グリッド杭間付近で確認し、S I 0 1 の北方約60mに位置する。

新旧関係 他の遺構との重複はない。

規模・形状 長軸東西4.7m、短軸南北3.5mの長方形で、全体的にゴボウトレンチャーにより壊されている。

主軸方向 罫を上にすると、磁北-8°-Eである。

埋土 第一次堆積は確認されず、ロームブロックを多く含むことから、廃絶後まもなくの人が埋め戻しか。

壁 深さは0.05~0.18mで、基部のみの確認である。各辺ともほぼ垂直に立ち上がる。

床面・貼床 全体的にしまってはいるが、硬化した部分は無かった。貼床は施されていなかった。また、南西部分のほぼ床面直上に炭化物集中部分が2か所確認された。

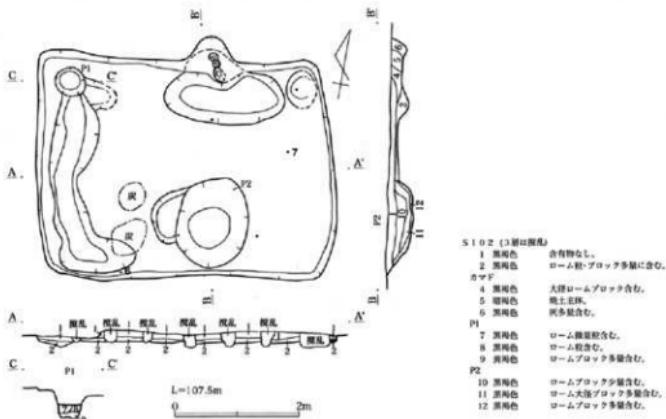
掘方・周溝 確認されなかった。

柱穴 P 1 断面で柱痕が確認され柱穴の可能性がある。平面ほぼ円形、断面筒状で、規模は、直径0.50m・床面からの深さ0.36mである。また、上面が削平されている北西コーナー部の土坑が遺構に伴うのであれば、2本柱穴で上屋を支えていた可能性も考えられる。

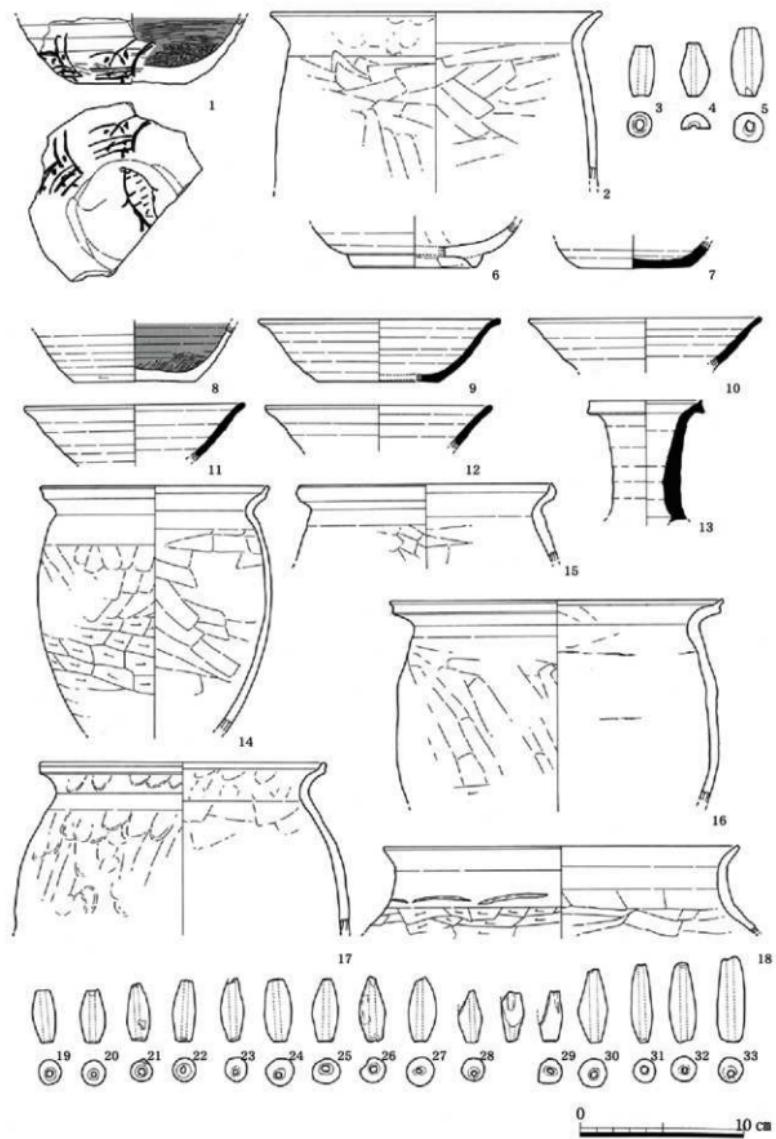
入口ピット 確認されなかったが、南部内側中央部に確認された平面椭円形、断面鍋底状の、長軸1.40m・短軸1.47m・床面からの深さ0.26mの堀込みは、入口部分を硬化するためのもの可能性がある。

貯蔵穴 確認されなかった。

火焚 北辺中央部やや東よりに竈を造り付けている。袖部・天井部は残存しておらず、廃絶時に徹底的に破壊されたものか。覆土中にも構築材と考えられる粘土はほとんど含まれていないが、凝灰岩の小破片が確認さ



第4図 西向遺跡 S I 0 2



第5図 西向遺跡 S101-02-03出土遺物

第2表 西向遺跡 S101・02・03出土遺物類表(1)

番号 種類 器種	大きさ (cm・g)	特　徴	色　調 施土・焼成 (または素材)	現存状況 目　記 出土地点
1 土師器 杯	高さ：[4.0] 底径：[7.0]	外面はロクロナデ後部下半にミガキ。底部回転ヘラ切り。縁部底底部(口 イ?)の凹部。体部底座部。内面はロクロナデ後部かなミガキ。黑色處理。	外J10YR6/4にぶい黄橙 (内)10Y2/1 黒 白色細粒多量。砂粒少量含む 焼成：良好	40% SI-1 覆土
2 土師器 甕	口径：[20.2] 高さ：[15.6]	外面はロ繩目指すサエで整形後ヨコナデ。胴部ナデ。内面はロ繩目ヨコナ デ。胴部ナデ。	(内)10YR6/4にぶい黄橙 砂粒、白色細粒中量含む 焼成：良好	10% SI-1 覆土
3 土製品 土瓶	長さ：3.0 幅：1.5 孔径：0.5	管状。横円形。全体ナデ。	(外)10YR5/2灰黒 白色細粒。赤色細粒少量含む 焼成：普通	ほぼ完形 SI-1 3 区 覆土
4 土製品 土瓶	長さ：3.3 幅：1.8 孔径：0.3	管状。横円形。全体ナデ。	(外)12.5YR6/6 棕 黒赤 焼成：普通	50% SI-1 3 区 覆土
5 土製品 土瓶	長さ：4.1 幅：1.9 孔径：0.4	管状。横円形。全体ナデ。	(外)12.5YR1/1 黄灰 白色細粒。黒質少量含む 焼成：普通	ほぼ完形 SI-1 1 区フク土 覆土
6 土師器 高台付杯	高さ：[2.6] 底径：[9.0]	外面はロクロナデ。内面は杯底部底面摩滅のため調整不明瞭だが、黑色處理 か。かすかにナデ。高台部ナデ。	(外)7.5YR6/4にぶい棕 (内)灰系10Y2/1 黒 高台部 7.5YR6/6 棕 白色細粒少量含む 焼成：良好	10% SI-2 No.5 覆土
7 須恵器 杯	高さ：[1.7] 底径：[6.0]	外面はロクロナデ。底部回転ヘラ切り。内面はロクロナデ。	(内)7.5YR3/3にぶい褐 白色細粒少量含む 焼成：良好	10% SI-2 No.4 覆土
8 土師器 杯	高さ：[3.1] 底径：7.4	外面は体部ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラケズリ。内面はロクロナ デ後。底部～体部下半を中心にミガキ。黑色處理。	(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)IN1/5 黑 小繩。砂粒中量含む 焼成：良好	40% SI-2 3 区、北カマド。 土坑2.5m10.5m-1 No.17 北カマド
9 須恵器 杯	口径：[14.8] 高さ：[3.8] 底径：[7.4]	外面はロクロナデ。底部回転ヘラ切りか。内面はロクロナデ。	(内外)10Y6/1 褐 黒赤 焼成：良好	30% SI-3 1区坑No.6 北東隅施土覆土
10 須恵器 杯	口径：[14.2] 高さ：[3.1]	内外面ともロクロナデ。	(内外)10Y6/1 褐 砂粒、白色細粒中量含む 焼成：良好	20% SI-3 2 区 覆土
11 須恵器 杯	口径：[13.4] 高さ：[3.5]	内外面ともロクロナデ。	(内外)7.5Y6/1 褐 砂粒少量含む 焼成：良好	20% SI-3 1 区、2 区 覆土
12 須恵器 杯	口径：[13.8] 高さ：[2.7]	内外面ともロクロナデ。	(内外)12.5GY5/1 オリーブ灰 小繩。砂粒。白色細粒多量に含む 焼成：良好	10% SI-3 2-4.1 区 覆土
13 須恵器 長颈瓶	口径：[7.0] 高さ：[7.0]	外面はロクロナデ。自然輪付着。内面はロクロナデ。	(外)7.5Y4/1 褐 (内)7.5NT/2 灰白 砂粒少量含む 焼成：良好	30% SI-3 侏 直底
14 土師器 甕	口径：[14.1] 高さ：[15.0]	外面はロ繩目～須部ヨコナデ。胴部上半～中位ナデ。胴部中位～下半ケズ り。内面はロ繩目～須部ヨコナデ。胴部ナデ。	(外)10YR6/6 棕 (内)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙 黒質少量。砂粒少量含む 焼成：良好	40% SI-3 10.4 区、土坑 No.1 南西隅覆土
15 土師器 甕	口径：[15.0] 高さ：[4.6]	外面はロ繩目～須部ヨコナデ。胴部ナデ。内面はロ繩目～須部ヨコナ デ。胴部ナデ。	(外)10YR2/4にぶい棕 白色細粒中量。砂粒・赤色細粒少量含む 焼成：良好	5% SI-3 覆土
16 土師器 甕	口径：[20.4] 高さ：[12.4]	外面はロ繩目～須部ヨコナデ。胴部ナデ。内面は須部表面摩滅のため調整不 明瞭。ロ繩目～須部ヨコナデ後ナデ。	(外)10YR6/4にぶい褐 (内)10YR7/4にぶい黄橙 砂粒少量。白色細粒・黒質少量中量含む 焼成：良好	20% SI-3 1 区、土坑No.1. 2-1 10x11-12 南東隅覆土
17 土師器 甕	口径：[17.0] 高さ：[10.3]	外面は須部～胴部ナデ。指オサエ後口縁部～須部ヨコナデ。内面は須部～胴部ヘラ カ。須部後口縁部ヨコナデ。一筋スス付着。	(内外)7.5YR5/4にぶい褐 白色細粒・黒質少量中量含む 焼成：良好	20% SI-3 2-10x10-フク土
18 土師器 甕	口径：[21.6] 高さ：[15.2]	外面は須部～胴部ヘラケズリ後口縁部ヨコナデ。内面は須部～胴部ヘラナ ド後口縁部ヨコナデ。一筋スス付着。	(内外)7.5YR5/4にぶい褐 砂粒中量含む 焼成：良好	20% SI-3 1 区-土坑No.1. 2-1 南東隅覆土
19 土製品 土瓶	長さ：3.2 幅：1.4 孔径：0.4	管状。やや紡錘形。全体ナデ。	(外)10YR6/6 棕 黒赤 焼成：普通	完形 SI-3 No.5 覆土
20 土製品 土瓶	長さ：3.8 幅：1.4 孔径：0.3	管状。やや紡錘形。全体ナデ。	(外)12.5YR5/3 棕 白色細粒・赤色細粒少量含む 焼成：普通	ほぼ完形 SI-3 1-Kn11 覆土
21 土製品 土瓶	長さ：3.4 幅：1.4 孔径：0.4	管状。やや紡錘形。全体ナデ。	(外)7.5YR6/6 棕 砂粒少量含む 焼成：普通	ほぼ完形 SI-3 No.2 ほぼ床直

第3表 西向遺跡 S 101・02・03出土遺物類表(2)

番号 種類 器種	大きさ (cm・μ)	特　　徴	色　　調 胎土・焼成 (または素材)	現存状況 目　記 出土状態
22 土製品 土鉢	長さ：3.7 幅：1.4 孔径：0.3	管状、やや前縫形、全体ナデ。	(外)32.5Y8/3 淡黄 繊密 焼成：良好	完形 SD 3 #1-19a12 覆土
23 土製品 土鉢	長さ：3.8 幅：1.4 孔径：0.3	管状、横円形、全体ナデ。	(外)32.5Y7/3 淡黄 白色細粒少量含む 焼成：普通	ほぼ完形 SD 3 #4 区 覆土
24 土製品 土鉢	長さ：3.8 幅：1.7 孔径：0.4	管状、横円形、全体ナデ。	(外)32.5Y6/1 黄灰 白色細粒少量含む 焼成：普通	完形 SD 3 #6.3 覆土
25 土製品 土鉢	長さ：3.7 幅：1.6 孔径：0.5	管状、縫縫形、全体ナデ。	(外)37.5YR6/6 棕 繊密 焼成：普通	完形 SD 3 #6.4 覆土
26 土製品 土鉢	長さ：3.9 幅：1.6 孔径：0.4	管状、縫縫形、全体ナデ。一部焼き取りのような強いナデのため凹む。	(外)32.5Y6/2 黄灰 白色細粒少量含む 焼成：普通	ほぼ完形 SD 3 #6.8 覆土
27 土製品 土鉢	長さ：3.9 幅：1.7 孔径：0.3	管状、横円形、全体ナデ。	(外)32.5Y8/2 灰白 白色細粒、黒質母少量含む 焼成：普通	ほぼ完形 SD 3 #10 覆土
28 土製品 土鉢	長さ：[3.1] 幅：1.4 孔径：0.3	管状、縫縫形、全体ナデ。	(外)32.5Y7/3 淡黄 白色細粒、黒質母少量含む 焼成：普通	80% SD 3 #7 覆土
29 土製品 土鉢	長さ：[3.0] 幅：[1.3] 孔径：0.4	管状、やや前縫形、全体ナデ、部分的にやや強めのナデ。	(外)37.5YR6/6 棕 白色細粒少量含む 焼成：普通	66% SD 3 覆土
30 土製品 土鉢	長さ：4.5 幅：1.8 孔径：0.4	管状、縫縫形、全体ナデ。	(外)32.5Y7/4 淡黄 繊密 焼成：良好	ほぼ完形 SD 3 #9 覆土
31 土製品 土鉢	長さ：4.7 幅：1.3 孔径：0.4	管状、やや前縫形、全体にナデを施すが鋸。表面ヒビ割れ有り。	(外)32.5Y7/4 淡黄 白色細粒、黒質母少量含む 焼成：普通	ほぼ完形 SD 3 #6 覆土
32 土製品 土鉢	長さ：4.9 幅：1.6 孔径：0.3	管状、横円形、全体ナデ。	(外)32.5Y6/1 黄灰 白色細粒多量に含む 焼成：普通	完形 SD 3 覆土
33 土製品 土鉢	長さ：5.2 幅：1.6 孔径：0.5	管状、横円形、全体ナデ。部分的に指頭圧痕か。	(外)31.0YR4/1 棕灰 白色細粒多量、黒質母少量含む 焼成：普通	完形 SD 3 #2 区 覆土

れているので袖の芯材として利用していた可能性がある。確認できた規模は、袖幅1.94m・全長1.40mである。燃焼部から煙道にかけては、あまり焼けていない。煙道は、平面舟首形状で、先端が70°の傾きでやや急に立ち上がり、北壁を幅0.87m・奥行き0.38mに掘り込んでいる。床面は、長軸東西1.94m・短軸南北0.78m、深さ0.06mの平面長梢円形、断面皿状に掘り窪めて火床（4・5層下面）としている。中央部には小ピットが3基確認された。周囲のロームが硬化しており、火床であった可能性が高く、位置的な関係から、いずれかは支脚抜取痕の可能性がある。燃焼部内における灰の堆積は多いが、赤変している部分がほとんど無いことから、短期間の使用と考えられる。

出土遺物 調査時には7点の遺物を確認した。うち図化・掲載した遺物は、第5図のとおりで、土器師の高台付壙1点（6）、須恵器の壙1点（7）の計2点である。図示した遺物の出土状態は、いずれも覆土中である。須恵器7の産地は白色礫の混入から益子産の可能性がある。未掲載であるが石製品・鐵製品が出土している。

時期 出土遺物から、平安時代前期（9世紀中葉）と考えられる。

S I 0 3 (第5・6図、第2・3表、図版四・五・六)

位置 調査区の南部No19グリッド杭付近で確認し、S 101の東方約80mに位置する。

新旧関係 SD 01より古い。

規模・形状 長軸南北4.1m、短軸東西3.7mの長方形である。西辺上部をSD01により壊されている。

主軸方向 北辺を上にすると、磁北-3°-Wである。

埋土 焼土ブロックを多量、ローム粒子・ロームブロックを若干含むことと、床面中央部西寄りから出土した炭化材と合わせて、焼失家屋の可能性がある。

壁 深さは0.25~0.50mで、西壁が最も深く残存している。各辺とも70°程度の傾きで、立ち上がる。

床面・貼床 中央部は地山ローム面を床としており、硬くしまりがある。やや凹凸があり、貼床は施されていなかった。調査時には確認できなかったが、堀方部分には貼床が施されていた可能性がある。

掘方 中央部分を残して四隅を土坑状に掘り込む。

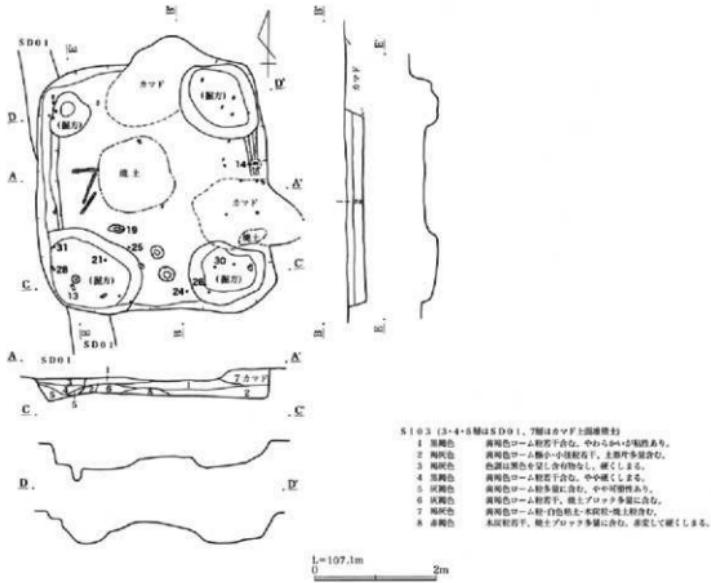
周溝 西辺と東辺に一部確認されており、幅は、0.10~0.20mで西側が最も広くなっている。深さと断面形状の記載は無かった。

柱穴 主柱穴は確認されなかった。壁で上屋を支えたか、もしくは堅穴外に存在した可能性がある。

入口ピット 南辺中央部内側に、平面円形で、直径0.25m・床面からの深さ0.20mと、直径0.20m・床面からの深さ0.15mの小穴が確認されたが、位置的に入口施設に伴う可能性がある。

貯蔵穴 確認されなかった。

火焔 北辺中央部(以下北竈と呼称)と東辺中央部やや南より(以下東竈と呼称)に竈を造り付けている。確認できた範囲規模は、北竈が幅約2.0m・全長約1.5m、東竈が幅約1.2m・全長約1.9m以上である。確認できた煙道の平面形状は、北竈が扁平な半円形状で、北壁を幅1.4m・奥行き0.4mに、東竈が舟首状で、北壁を幅1.0m・奥行き0.5m以上に掘り込んでいる。



第2章 報告遺跡の概要

出土遺物 調査時には 46 点の遺物の出土位置を記載した。うち図化・掲載した遺物は、第 5 図のとおりで、土師器の壺 1 点（8）・甕 5 点（14・15・16・17・18）、須恵器の壺 4 点（9・10・11・12）・長頸壺 1 点（13）、土製品 15 点（19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33）の計 26 点である。特筆すべき点は、變形土器の下野（常総）型と武藏型が併存する点と、土錐の出土量の多さである。図示した遺物の出土状態は、床面直上 2 点（13・21）、竈内 1 点（8）、覆土中 22 点（10・11・12・14・15・16・17・18・19・20・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33）、堀方内 1 点（9）である。

13 は猿投産の原始灰軸の可能性がある。未掲載であるが鉄製品が出土している。

時期 出土遺物から、平安時代前期（9世紀後葉）と考えられる。

S D 0 1 （第 6 図、図版四）

位置 調査区の南部№19 グリッド杭付近で確認した。北北西方向から南南西方向に伸びる。

新旧関係 S I 0 3 より新しい。

規模・形状 確認した長さは 6.2m で、南北両端はトレンチ外に存在する。上場・下場とも直線的で上幅が 0.7m、下幅が 0.6m の不整逆台形状である。底面はローム層及び S I 0 3 内に掘り込まれ、ほぼ平坦である。主軸方向 磁北-15° -W である。

埋土 褐色土や黒褐色土を中心とした自然堆積で、シルト層や砂層などは認められず當時水を湛えていた痕跡は無い。出土遺物 調査時に記載、及び図化し得た遺物は無い。

墓 壙 （第 3 図、図版三）

位置 調査区の南西部№15 グリッド杭付近で確認した。

新旧関係 S I 0 1 より新しい。

規模・形状 長軸 0.82m、短軸 0.55m の楕円形で、確認面からの深さ 0.07m の断面皿状である。

主軸方向 磁北-15° -W である。

埋土 歯や大腿骨などの骨片（ウマか？）を含む、暗褐色・明褐色の人為埋土である。

S K 0 1 （第 7 図、）

位置 調査区の南西部№16 グリッド杭付近で確認した。新旧関係 他の遺構との重複は無い。

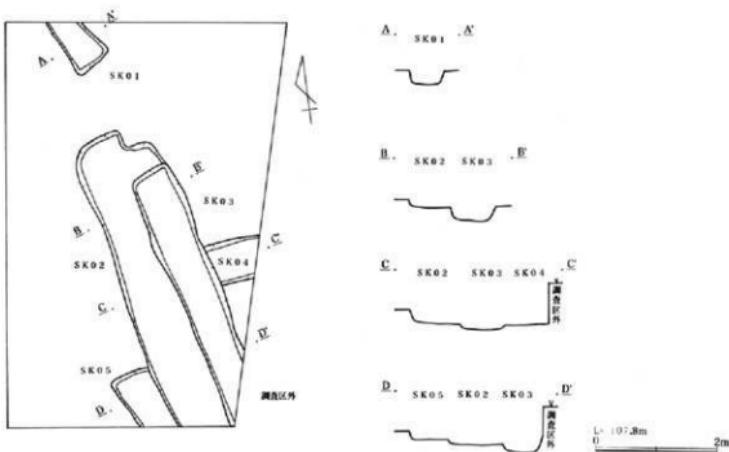
規模・形状 長軸 1.04m 以上、短軸 0.64m の平面隅丸長方形の可能性があり、確認面からの深さ 0.21m の断面逆台形状である。 主軸方向 磁北-25° -W である。

S K 0 2 （第 7 図、図版三）

位置 調査区の南西部№16 グリッド杭付近で確認した。新旧関係 S K 0 3 と重複するが新旧関係は不明である。 **規模・形状** 長軸 4.68m 以上、短軸 1.36m の平面不整隅丸長方形の可能性があり、確認面からの深さ 0.14~0.18m の断面皿状である。 主軸方向 磁北-18° -W である。

S K 0 3 （第 7 図、図版三）

位置 調査区の南西部№16 グリッド杭付近で確認した。新旧関係 S K 0 2・0 4 と重複するが新旧関係は不明である。 **規模・形状** 長軸 4.28m 以上、短軸 0.75m の平面隅丸長方形の可能性があり、確認面から



第7図 西向遺跡 土坑

の深さ 0.20~0.33m の断面皿状である。主軸方向 磁北-18°-W である。

SK04 (第7図、図版三)

位置 調査区の南西部No16 グリッド杭付近で確認した。新旧関係 SK02 と重複するが新旧関係は不明である。規模・形状 長軸 0.89m以上、短軸 0.68mの平面隅丸長方形の可能性があり、確認面からの深さ 0.23mの断面皿状である。主軸方向 磁北-80°-E である。

SK05 (第7図)

位置 調査区の南西部No16 グリッド杭付近で確認した。新旧関係 SK02 と重複するが新旧関係は不明である。規模・形状 長軸 1.08m以上、短軸 0.54mの平面隅丸長方形の可能性があり、確認面からの深さ 0.31mの断面皿状である。主軸方向 磁北-20°-W である。

なお、これらの溝・墓塚・土坑については出土遺物が確認されなかつたため時期は不明である。

第3章　まとめ

西向遺跡 遺構として特筆すべきことは、カマドの造り付け位置が北辺に1基（S101・S102）から、北辺と東辺に1基ずつの2基（S103）に変化していくことが遺物の面からも判明したことであろう。これは周辺の芳賀地域での変遷類例にも沿う結果であり、今回の試掘調査という限られた範囲での調査ではあったが、大きな成果を挙げられたと言える。

遺物について見ると、内面黒色処理土師器の存在や、S103に於ける肩部に最大径をもつ下野（常総）型甕と「コ」字状口縁部の武藏型甕の併伴事例からも9世紀中葉から後葉のものと見て差し支えないと考えられるが、13ののみ猿投産原始灰釉陶器の可能性があり、口縁部の反り具合から見て9世紀前葉に位置する。灰釉陶器は床面直上からの出土であることと搬入された貴重品と言う性格を考えれば、単なる流れ込みではなく大切に伝世されたものとも考えられよう。

他に特筆すべき遺物としては、S101から出土した土師器杯で、底部に魚の絵が描かれ、体部には墨書「慶慶」銘が墨書きされている。魚は鰐の描写からコイの可能性がある。また、S101から3点とS103から15点の併せて、18点もの大量の土鍤が出土していることと併せて考えれば、この西向遺跡の古代集落は河岸段丘に位置する漁労に関係した集落であった可能性が高いと言えよう。

（参考文献）

- 尾野義裕 2000『猿投窯（系）須恵器編年の再構築』『須恵器生産の出現から消滅第1分冊』東海上器研究会
江原英・大野淳史 2012『県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査・工事立会概要報告書』栃木県埋蔵文化財報告書
第344集栃木県教育委員会・（財）とちぎ未来づくり財團

写 真 図 版



西向遺跡 遠景（東上空から）



西向遺跡 全景（北から）



西向遺跡 T 1（北から）



西向遺跡 T 3より南を望む（北から）



西向遺跡 T 4（北から）

図版二
一 西向遺跡
遺構



西向遺跡 T 5 (北から)



西向遺跡 T 6 (北から)



西向遺跡 T 7 (北から)



西向遺跡 T 8 (北から)



西向遺跡 T 11 (北から)



西向遺跡 T 14 (北から)



西向遺跡 T 15 (南から)



西向遺跡 T 18 (北から)

図版三 西向遺跡 遺構



西向遺跡 T22 (北から)



西向遺跡 T24 (北から)



西向遺跡 墓壙 骨出土状況 (西から)



西向遺跡 墓壙 (西から)



西向遺跡 SK02・03・04 土層断面C—C' (北から)



西向遺跡 SI 01 (西から)



西向遺跡 SI 01 墓書土器出土状況 (南から)



西向遺跡 SI 01 P1 (南から)

図版四

西向遺跡
遺構



西向遺跡 S101 カマド（南から）



西向遺跡 S102（西から）



西向遺跡 S102 作業風景（南西から）



西向遺跡 S103 遺物出土状況（南西から）



西向遺跡 S103 No.13 出土状況（南西から）



西向遺跡 S103（北から）



西向遺跡 S103 東カマド（北から）

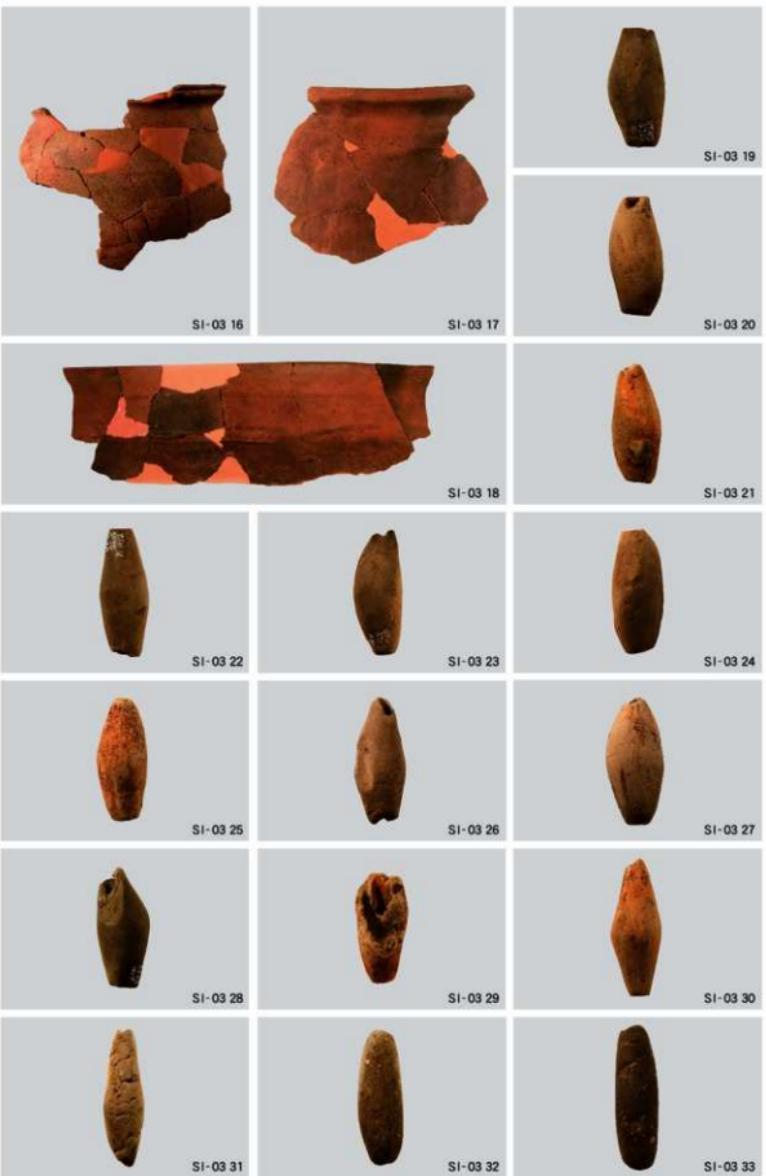


西向遺跡 S103 作業風景（北から）

図版五 西向遺跡 遺物



圖版六
西向遺跡
遺物



報告書抄録

ふりがな	にしむかいいせき
書名	西向遺跡
副書名	畠地帯総合土地改良事業清原南部地区に伴う発掘調査
卷次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第370集
編著者名	龟田幸久
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫 474 番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2014年2月28日（平成26年2月28日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 ° °'	東経 ° °'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
にしむかいいせき 西向遺跡	うつのみやし 宇都宮市 かみのわらわ 上籠谷	09201	328	36°31'06"	139°58'18"	19980126～ 19980323	622	圃場整備
さきづかこふん 笹塚古墳	#	09201	327	36°31'00"	139°58'18"	19980126～ 19980323	#	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西向遺跡	集落跡	平安時代	竪穴住居跡3軒 溝跡1条 墓壙1基 土坑5基	須恵器、土師器、陶器、土製品、 石製品、鉄製品	「慶慶」の墨書 を持つ土師器 壺・土鍤などが出土
笹塚古墳	塚	近世か	塚1基	なし	

要約	西向遺跡・笹塚古墳はいずれも宇都宮市上籠谷地内に所在し、鬼怒川左岸の段丘上に立地する。西向遺跡は、平安時代の集落跡の一部を確認した。 笹塚古墳は、周溝が確認されず、古墳ではなく供養塚などの可能性が高い。
----	---

栃木県埋蔵文化財調査報告第370集

西向遺跡

－畠地帯総合土地改良事業清原南部地区に伴う発掘調査－

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市塙田1-1-20

TEL 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8

TEL 028 (643) 1011

平成26年2月28日発行

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫474

TEL 0285 (44) 8441

印刷 下野印刷株式会社
